

中央卸売市場

鹿児島市中央卸売市場

Kagoshima City Chuo Wholesale Market

施設配置図

青果市場

鹿児島市東開町11-1

TEL:099-267-1311

FAX:099-267-1314



魚類市場

鹿児島市城南町37-2

TEL:099-223-0310

FAX:099-223-9817



令和8年度版

鹿児島市中央卸売市場

鹿児島市中

中央卸売市場の意義及び目的

本市場は、私たちの毎日の食生活に欠かすことのできない野菜・果物・水産物などの生鮮食料品を卸売するための市場で、卸売市場法に基づいて、鹿児島市が開設し、農林水産大臣の認定を受けています。

野菜・果物・水産物などの生鮮食料品は、一般の商品と異なって鮮度、すなわち商品価値が低下しやすく、長期にわたる貯蔵が困難で、品物も多種多様にわたっています。そのうえ、自然条件に左右されやすいので、価格が常に変動しがちです。このため、卸売市場は生鮮食料品を迅速かつ効率的に分荷し、公正・公平な売買取引を行う必要があります。市場はこのように公益性が高く、また大規模な施設と膨大な費用を要することから、鹿児島市が開設、運営し、公正で効率的な取引と衛生の維持に努め、市民の食生活の安定を図っています。

《中央卸売市場には次のような機能があります》

- ① 大量かつ効率的な集分荷
- ② 多種多様な品目の豊富な品揃え
- ③ 適正な価格形成
- ④ 確実・迅速な決済
- ⑤ 需給に係る情報の収集及び伝達など

これらの機能を果たすことによって、消費者に安全で安心な生鮮食料品を安定的に供給し、生産者には信頼できる継続的な販売ルートを確認します。

中央卸売市場のあゆみ

鹿児島市における生鮮食料品卸売市場の歴史は古く、元和元年（1615年）島津家久によって納屋通（現在の中町）にご用魚問屋が設立され、全盛期には48軒の間屋が軒を連ねていました。青果市場としては大正13年、鹿児島市役所前の名山堀付近に鹿児島青物卸売市場が、大正14年には桜島青果卸売市場が開設され、市民に親しまれてきました。

中央卸売市場としては、昭和10年4月に商工省の開設認可を受け、同年11月3日、全国で7番目、九州では最初の中央卸売市場を鹿児島市が開設しました。

開設当初は、青果市場と魚類市場は併設していましたが、取扱量の増大や車両の急増等による狭あい化及び施設の老朽化などの理由で、魚類市場が昭和42年4月に現在地、城南町に移転し、青果市場は昭和51年11月に現在地、東開町に移転。生鮮食料品流通の基幹的インフラとして市民の食生活を支えています。



青果市場全景



魚類市場全景

青果市場品目別取扱高(令和7年次)

野菜				
品目	数量	金額	構成比 (%)	
			数量	金額
キャベツ類	2万3,817t	26億6,434万円	15.7	6.8
はくさい	1万5,959t	13億6,995万円	10.5	3.5
たまねぎ	1万3,884t	23億6,497万円	9.1	6.0
だいこん類	1万2,918t	11億9,230万円	8.5	3.0
レタス類	9,625t	14億2,348万円	6.3	3.6
その他	5万4,191t	205億8,013万円	35.7	52.4
計	13万0,394t	295億9,517万円	85.8	75.3

果実				
品目	数量	金額	構成比 (%)	
			数量	金額
バナナ	3,698t	8億3,198万円	2.4	2.1
りんご	2,982t	15億6,628万円	2.0	4.0
みかん	2,344t	7億1,515万円	1.5	1.8
かき	1,506t	5億8,186万円	1.0	1.5
すいか	1,359t	3億6,833万円	0.9	0.9
その他	8,027t	54億1,616万円	5.3	13.8
計	1万9,916t	94億7,976万円	13.1	24.1

その他				
品目	数量	金額	構成比 (%)	
			数量	金額
漬物	1t	46万円	0.0	0.0
加工品・他	1,581t	2億2,094万円	1.0	0.6
計	1,582t	2億2,140万円	1.0	0.6

合計	15万1,892t	392億9633万円	100.0	100.0
----	-----------	------------	-------	-------

※数値は四捨五入により、合計と一致しない場合があります。

鹿児島市中央卸売市場の取引の仕組み

市場で働く人たち

開設者

鹿児島市が市場の開設者となり、施設の維持管理、業務の許可又は承認など市場の運営にあたり、法律、条例、規則に基づいて指導監督にあっています。

卸売業者

開設者から卸売業務の許可を受けて、生産者又は出荷業者などから委託された生鮮食品などをせり売・相対取引の販売方法によって、仲卸業者・売買参加者に販売します。(記章の色は緑色)

仲卸業者

開設者から仲卸の業務の許可を受けて、卸売業者から買い付けた品物を市場内の仲卸店舗で売買参加者や買入人に相対売り、又は他市場等へ転送販売します。(記章の色は白色)

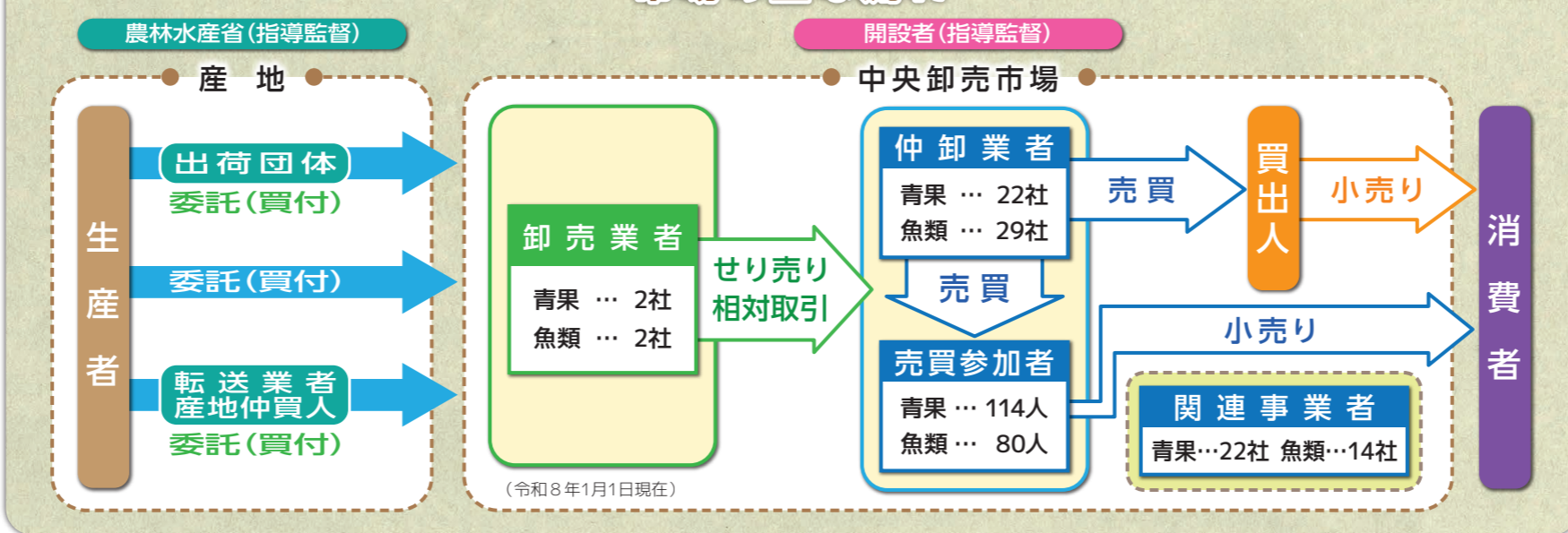
売買参加者

生鮮食品の小売業者又は加工業者等の大口需要者のうち開設者の承認を受けて仲卸業者と同様、卸売業者が行うせりに参加できる者で、市場外の店舗で主として一般消費者へ小売りする業者をいいます。(記章の色は青果：黄色、魚類：青色)

関連事業者

開設者から関連事業の許可を受けて、市場機能の補完的役割をする業者や、市場を利用する人達の便宜をはかるため市場内で関連食品販売、冷蔵庫業、飲食業、日用雑貨販売業などを営む業者をいいます。

市場の主な流れ



魚類市場品目別取扱高(令和7年次)

鮮魚				
品目	数量	金額	構成比 (%)	
			数量	金額
かつお類	3,960t	19億7,934万円	24.0	12.3
まぐろ類	1,389t	17億146万円	8.4	10.6
たい類	1,079t	13億4,586万円	6.5	8.4
ぶり	1,043t	8億2,162万円	6.3	5.1
しび	947t	3億3,112万円	5.7	2.1
あじ類	532t	2億5,645万円	3.2	1.6
いわし類	471t	2億3,681万円	2.9	1.5
その他	4,816t	58億4,488万円	29.2	36.4
計	1万4,237t	125億1,754万円	86.4	77.9

その他				
品目	数量	金額	構成比 (%)	
			数量	金額
冷凍塩干等	2,244t	35億4,332万円	13.6	22.1

合計	1万6,481t	160億6,086万円	100.0	100.0
----	----------	-------------	-------	-------

※数値は四捨五入により、合計と一致しない場合があります。



本市中央卸売市場は、『つながる人・もの フレッシュで 活気あふれる市場を目指して』取り組んでいます。



1日平均取扱高(令和7年次)

青果		
種類別	種類	金額
野菜	528ト	1億1,982万円
果実	81ト	3,838万円
その他	6ト	90万円
計	615ト	1億5,909万円

魚類		
種類別	種類	金額
鮮魚	56ト	4,890万円
冷凍魚	3ト	348万円
塩干・その他	6ト	1,036万円
計	64ト	6,274万円

中央卸売市場取扱高

年次	青果	魚類	合計
令和3年	17.8万t 339.4億円	2.2万t 140.4億円	20.0万t 479.8億円
令和4年	17.1万t 357.3億円	2.2万t 165.6億円	19.3万t 522.9億円
令和5年	16.7万t 367.5億円	2.2万t 169.4億円	18.9万t 536.9億円
令和6年	15.4万t 400.2億円	1.8万t 156.0億円	17.2万t 556.2億円
令和7年	15.2万t 393.0億円	1.6万t 160.6億円	16.8万t 553.6億円

